

Well-beingの 実現に向けた スポーツ健康科学

2023年6月23日(金) 13:30-16:30

- 立命館大学びわこ・くさつキャンパス
プリズムホール

- オンライン: Zoom

- 参加費無料



参加申込はこちらから

[https://
bit.ly/spo230623](https://bit.ly/spo230623)



スポーツ健康科学総合研究所は、スポーツ・健康・ウェルフェア分野の総合研究拠点として2022年4月に設立しました。研究所では「健康・長寿の実現」「スポーツを通じたQOLの向上」「まち・社会の健康の実現」を「3つの柱」と設定し、所属する90名を超える研究者が、国内外のトップレベルの研究機関と連携して基礎研究から開発・実証、社会実装までのイノベーションサイクルを構築し、一貫通貫で推進します。

研究所が考える「3つの柱」とWell-beingの観点から、研究所の発足を記念し、以下のシンポジウムを企画しました。

今回のシンポジウムでは、個人のWell-being実現に向けて定藤先生に脳神経科学の観点から講演していただきます。続けて持丸先生にはこれから拡張するメタバース、インターバースの世界、未来におけるWell-beingはどのように捉えていくかをご講演いただきます。

さらに、おふたりとともに心理学的観点、社会学的観点、ロボティクス学的観点からの研究者をパネラーに加えてディスカッションを行います。多くの関係者のご参加をお待ちしております。

13:30 開会挨拶 伊坂忠夫 (スポーツ健康科学総合研究所 所長/立命館大学 副学長)

13:40 講演1 「個人の Well-being 実現に向けて：脳神経科学の観点から」

定藤規弘 (総合科学技術研究機構 教授/RARAフェロー/大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 兼任)

14:40 講演2 「個人の Well-being 実現に向けて：未来における Well-being の観点から (メタバース×インターバース)」

持丸正明 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 フェロー (人間拡張研究センター長 兼務)/RARAフェロー/総合科学技術研究機構 客員教授)

15:50 パネルディスカッション 「これからの未来像：研究所における3つの柱から Well-being を考える」

定藤規弘 (総合科学技術研究機構 教授/RARAフェロー/大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 兼任)

持丸正明 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 フェロー (人間拡張研究センター長 兼務)/RARAフェロー/総合科学技術研究機構 客員教授)

パネラー 岡田志麻 (スポーツ健康科学総合研究所 副所長/理工学部 ロボティクス学科 教授/RARAフェロー)

岡田まり (産業社会学部 現代社会学科 教授/研究部 副部長)

鈴木華子 (総合心理学部 准教授/総合心理学部 副学部長)

モデレーター 伊坂忠夫 (スポーツ健康科学総合研究所 所長/立命館大学 副学長)

16:30 閉会挨拶 岡田志麻 (スポーツ健康科学総合研究所 副所長/理工学部 ロボティクス学科 教授/RARAフェロー)



定藤規弘

総合科学技術研究機構 教授／RARAフェロー／
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 兼任

1983年京都大学医学部卒業、放射線診断専門医。

メリーランド州立大学病院放射線診断科(アメリカ)の臨床フェロー等を経て、1994年京都大学大学院医学研究科修了。医学博士。

その後、米国国立衛生研究所研究員、福井医科大学講師、助教授を経て、1999年より2023年3月まで生理学研究所教授。2023年4月より、立命館大学総合科学技術研究機構 教授(現職)。日本学術会議連携会員。



持丸正明

国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー(人間拡張研究センター長 兼務)／
RARAフェロー／総合科学技術研究機構 客員教授

1993年慶應義塾大学大学院博士課程 生体医工学専攻修了。博士(工学)。

同年、工業技術院生命工学工業技術研究所 入所。2001年、改組により、産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究ラボ 副ラボ長。

2018年より、人間拡張研究センター センター長。2023年4月より、国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー(人間拡張研究センター長 兼務)、内閣府SIPバーチャルエコノミーの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備、プログラムディレクター。専門は人間工学、バイオメカニクス、サービス工学。

現在、ISO TC 324および PC329国際議長。消費者安全調査委員会・委員長代理。



伊坂忠夫

スポーツ健康科学総合研究所 所長／
立命館大学 副学長

1999年 博士(工学)。1992年 立命館大学理工学部着任。スポーツ健康科学部・研究科設置委員会事務局長、スポーツ健康科学部長などをを経て、2019年から副総長・副学長(学生・入試・一貫教育担当)。2022年立命館大学スポーツ健康科学総合研究所 初代所長。2013年から2020年「文部科学省革新的イノベーション創出(COI)プログラム」Active for All(活力ある社会の実現)拠点のリーダー・リサーチャー。

日本バイオメカニクス学会理事長、日本体育・スポーツ・健康学会 理事。



岡田志麻

スポーツ健康科学総合研究所 副所長／
理工学部 ロボティクス学科 教授／RARAフェロー

2000年、立命館大学理工学部卒業、2002年同大学理工学研究科修了、2009年に大阪大学大学院医学系研究科の後期博士課程修了。博士(保健学)。

三洋電機株式会社 研究員、日本学術振興会特別研究員(DC2)、立命館大学理工学部准教授を経て、2022年より同大学教授(現職)。専門は生体工学。



岡田まり

産業社会学部 現代社会学科 教授／
研究部 副部長

1988年、同志社大学文学研究科修士課程を修了。1992年、ワシントン大学ソーシャルワーク研究科修士課程を修了後、1996年、コロンビア大学教育学研究科博士課程修了(教育学博士)。帰国後、1998年より花園大学社会学部専任講師を経て、2001年、立命館大学に着任。京都府住宅審議会委員、京都市社会福祉審議会委員、京田辺市男女共同参画審議会委員、公益社団法人葵橋ファミリークリニック理事なども歴任。



鈴木華子

総合心理学部 准教授／
総合心理学部 副学部長

立命館大学総合心理学部准教授。ボストン大学、ボストンカレッジ大学院を経て、熊本大学大学院医学教育部修了。医学博士。筑波大学留学生センター助教として留学生支援に携わった後、2017年より現職。日本心理学会・国際担当常務理事。世界心理科学連合(International Union of Psychological Science)・理事。専門はカウンセリング心理学。多文化・多様性、メンタルヘルス、ウェルビーイングをテーマに研究している。

会場

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
プリズムホール 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

電車・バスで来られる方

JR南草津駅から近江鉄道バス「立命館大学行き」または、立命館大学経由「松ヶ丘五丁目行き」、「県立長寿社会福祉センター行き」約20分

車で来られる方

キャンパスに入構した際に、正門の警備員に本シンポジウムに参加する旨をお伝えください。



2023年度 スポーツ健康科学総合研究所 設立記念シンポジウム
Well-beingの実現に向けたスポーツ健康科学
開催報告

【日時】

2023年6月23日（金）13：30－16：30

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス プリズムホール（対面＋オンラインのハイブリット）

【テーマ】

「Well-beingの実現に向けたスポーツ健康科学」

講演①「個人の Well-being 実現に向けて：脳神経科学の観点から」

定藤規弘先生（総合科学技術研究機構 教授／RARA フェロー／大学共同利用機関法人
自然科学研究機構生理学研究所 兼任）

講演②「個人の Well-being 実現に向けて：未来における Well-being の観点から

（メタバース×インターバース）

持丸正明先生（国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー（人間拡張研究センター長 兼務）／
RARA フェロー／総合科学技術研究機構 客員教授）

パネルディスカッション「これからの未来像：研究所における3つの柱から Well-being を考える」

（パネリスト）

定藤規弘先生

持丸正明先生

岡田志麻先生（スポーツ健康科学総合研究所 副所長、理工学部 ロボティクス学科 教授、
RARA フェロー）

岡田まり先生（産業社会学部 現代社会学科 教授、研究部 副部長）

鈴木華子先生（総合心理学部 准教授、総合心理学部 副学部長）

（モデレーター）

伊坂忠夫所長（スポーツ健康科学総合研究所 所長、立命館大学 副学長）

スポーツ健康科学総合研究所設立記念シンポジウムを開催しました。

2023年6月23日（金）立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、スポーツ健康科学総合研究所設立記念シンポジウム「Well-beingの実現に向けたスポーツ健康科学」を開催しました。

開催当日は現地参加121名、オンライン参加約280名、合計約400名の方々にご参加いただきました。

開会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学総合研究所・所長、立命館大学・副学長/伊坂忠夫先生による開会挨拶をおこない、本研究所の紹介、活動概要とシンポジウム趣旨をご紹介しました。また、研究所紹介の中では設立記念に伴い、研究所ロゴの正式発表も行いました。



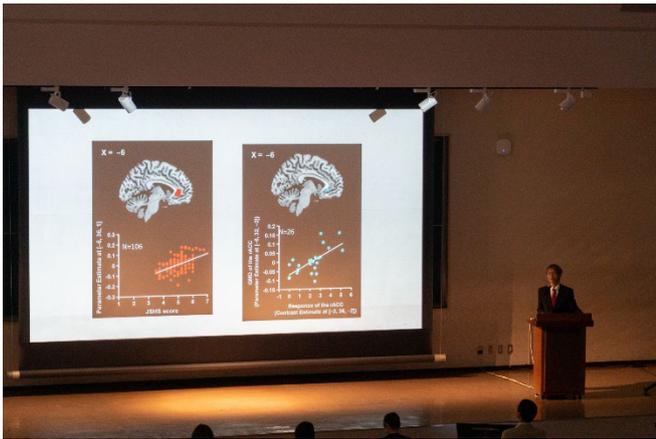
講演①「個人の Well-being 実現に向けて：脳神経科学の観点から」

総合科学技術研究機構教授の定藤規弘先生により、脳神経科学の観点から今回は Well-being を幸福と表現し、ご講演いただきました。

Well-being は「快適」と「やりがい」に2分でき、MRI での撮像による実験結果を含めた内容をわかりやすくご説明をいただき、また、Well-being そのものは学習可能である可能性についてもお話いただきました。実験結果や検証を含めたアカデミックな内容を丁寧にご説明いただきながら、実際の行動である「やりがい」や「褒め」という言葉にあてはめたお話であったため、研究者であれば他分野の内容、また研究者以外の方にもイメージしやすい内容となり、Well-being を身近なものに考えるきっかけとなりました。

参加者からの感想

「脳の仕組みと感情に興味があったため、新たな知識を勉強できて非常に有意義な講演であった」、「人間の幸せは、内発的動機から起こしたアクションに対する結果、つまり得られた報酬と関係しているという非常に親近感のあるお話であった」、「新たなウェルビーイングの概念整理ができ、有意義な時間だった」など多々ご感想をいただきました。



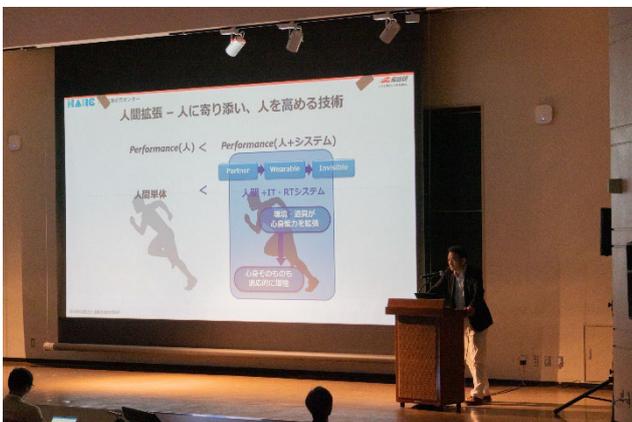
講演②「個人の Well-being 実現に向けて：未来における Well-being の観点から（メタバース×インターバース）」

国立研究開発法人産業技術総合研究所フェローの持丸正明先生により、未来における Well-being の観点からご講演いただきました。

メタバースについて、ゲームを絡めた運動へのきっかけやヘルスケアサービスの研究、日常歩行の可視化などメタバースを活用した健康へのサポートのお話が印象的でした。多感覚 XR-AI による遠隔リハビリの研究から、実際にウェアとなり社会実装につなげられているご紹介もいただきました。また、ユニバース・メタバースの 2 つの空間の価値を還流させるインターバースについて、コロナ禍で変化したバーチャルエコノミーについて、いかに価値を現実空間に戻せるか、両者を繋ぐことで全体の価値を拡張し人々の健康や Well-being に貢献、活用できるという現代に沿った最新の知見を含めた貴重なお話をいただきました。

参加者からの感想

「今までに無い角度からのお話を聞かせていただいた」、「難しいイメージでしたが、少しずつ具体的に理解できた気がする」、「先生のお話が大変面白く、楽しめた」、「実験室データとフィールドのビッグデータを組み合わせる介入、行動変容を促していくというお話に興味を持った」などたくさんのご感想をいただきました。



パネルディスカッション「これからの未来像：研究所における3つの柱から Well-being を考える」

パネルディスカッションでは、ご講演いただいた定藤規弘先生、持丸正明先生に加え、理工学部教授の岡田志麻先生、産業社会学部教授の岡田まり先生、総合心理学部准教授の鈴木華子先生にご登壇いただき、研究所長の伊坂忠夫先生がモデレーターを務め、パネルディスカッションを行いました。

先生方からは専門の研究内容、研究動向を絡めた Well-being への繋がりについてお話いただきました。様々な分野の領域から、研究や社会実装について最新の知見を得ることができました。また、ひとつのお話から異なる分野の先生のお話に繋がり、その相乗からさらに輪が広がるような場面を目の当たりにすることができたのではないかと感じます。各分野のスペシャリスト同士の貴重なディスカッションとなり、大変盛り上がった内容となりました。





参加者からの感想

「お話を通じて、より良い生活環境づくりで一致していることが理解できた」、「今まで聞いたことのないお話で興味深かった」「自身の研究にも繋がりそうな、興味深い内容であった」、「分野の融合の重要性を改めて感じたとともに、新しいアイデアの種を生み出すには違った視点でのディスカッションが欠かせないと感じた」、「Well-being という一つの課題に向けて、多方向からのお話をお聞かせいただき、興味深かった」、「わかりやすく、ワクワクする内容であり皆さんの色々なあつい想いが伝わった」など多くのご感想をいただきました。

閉会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学総合研究所副所長、理工学部 ロボティクス学科 教授、RARA フェロー/岡田志麻先生よりご挨拶を行いました。Well-being の研究とは、研究分野の壁、世代の壁は関係なく全員が総合的に取り組んでいくべき研究分野であり、前人未到の次世代研究に挑戦し続けなければ真のWell-being には到達できないことから、より一層研究を推進していきたい意向をお伝えしました。



スポーツ健康科学総合研究所は、スポーツ・健康・ウェルフェア分野の総合研究拠点として2022年4月に設立し、所属する117名（2023年6月現在）の研究者が、国内外のトップレベルの研究機関と連携して基礎研究から開発・実証、社会実装までのイノベーションサイクルを構築し、一貫通貫で推進しております。

本シンポジウムでは定藤先生、持丸先生に加え、びわこ・くさつキャンパス、衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパスから先生方にお越しいただき、人文科学分野や自然科学分野だけではなく様々な分野の研究者が所属しているところが強みでもあります。今回は設立記念にふさわしい華やかな会となりました。

今後も研究所員とともに培ってきた知見を活かし、あらゆる人の身体的・精神的・社会的健康の実現に主体的に取り組み、多様性と包摂性に優れ、誰もが健康的な生活を送ることのできる社会の実現を目指し、取り組んでまいります。



IARSHS

立命館大学

スポーツ健康科学総合研究所